

# 軽井沢でのテニスの発祥と



▲クラブでテニスを楽しむ避暑客 大正時代



▲明治時代のテニスコート

▼戦前の軽井沢トーナメント



▶昭和17年の軽井沢トーナメント

軽井沢テニストーナメントが100年目を迎えた。明治18年、宣教師ショーと友人ディクソンが軽井沢を訪れ、内地在留の欧米人に軽井沢の素晴らしさを伝えてから、外国人が別荘を建てテニスコートを造りテニスを始めたのが軽井沢テニス発祥である。また明治34、35年頃教会横のパブリックコートで外国人の宣教師たちに交じって当時日本の上流階級の人たちが軽井沢テニスクラブに入部して外国人と一緒にテニスに興じている。

日本テニス発祥の横浜山手にある明治11年創立の日本で一番古いテニスクラブである現在の横浜インターナショナルテニスコミュニティは、戦前までは、外国人専用のテニスクラブで、戦後になって初めて日本人も段々と入会を許されるようになった。それに比べ、軽井沢テニスクラブは、外国人と日本人が一緒になりひと夏テニスを楽しんだクラブであり、外国人の良い風習、テニスだけでなく音楽会やダンスパーティ、それに遠足、子供たちのスポーツ等々のひと夏の楽しみ方を日本人が学び、実践したことに、日本のテニス発祥に忘れてはならないのは軽井沢のテニスであると考えられる。



▶昭和17年  
女子単優勝  
宮城明子嬢



軽井沢トーナメントは日本一古いトーナメントで全日本選手権が開催される大正 11 年の5年前、大正 6 年に第 1 回が開催され、京都大学の軟式の名手で硬式も強かった羽田武内氏が優勝している。そして優勝後に熊谷一弥氏とのエキジビションが盛り上がったとの記述も残っている。第 5 回からは原田武一、福田雅之助、三木龍喜、青木岩雄、布井良助、太田芳郎、佐藤俵太郎、上原増雄……と全日本優勝者と重なっており「軽井沢トーナメントが全日本選手権の前哨戦であった」とも記述されている。

「軽井沢トーナメント」は女子シングルスも大正 12 年（優勝者：バソソピエール）より始まり、これも全日本選手権より 1 年早い開催で大正 13 年の優勝者はどちらも黒井悌子である。

終戦後も昭和 21 年から再開され、村上麗蔵、鶴原謙造、石黒修、長崎正雄、河盛純造…、女子では宮城黎子、井上早苗、保田多美子、黒松和子、村上智佳子、畠中君代……など全日本優勝者やデ杯選手が出場し優勝している。

その後もレベルの高いトーナメントとして現在に至り、今年 100 回目を迎えた。また最近はテニス人口の高年齢化で軽井沢トーナメントのベテランの種目も増えている。

春のフューチャーズ大会での海外への登竜門の大会や、秋のベテラン大会と軽井沢会のコートはにぎわって居ます。

また、軽井沢のテニスで忘れられない出来事は昭和 32 年の両陛下の出会い、皇室との関係です。部内トーナメントでの出会いや、両陛下そろっての軽トーご出場、皇太子殿下の軽トーご出場、秋篠宮のジュニア部門での優勝等です。

現在も夏の終わりにたびたびご来臨になり思い出のコートでプレーを楽しまれています

JTA テニスミュージアム委員会委員  
越智和夫

《資料提供 軽井沢会》



▲昭和20年代の軽井沢トーナメント表彰式



▲昭和30年代前半の軽井沢トーナメント表彰式



▲クラブ内トーナメントの皇太子殿下と美智子妃殿下



▲昭和35年の軽井沢トーナメント表彰式



▲平成25年ご来臨の両陛下

◀ 礼宮様を応援なさる  
皇太子殿下と美智子妃殿下



▶ 平成21年～25年  
男子複5連覇達成の  
柿本・石田組

# 軽井沢トーナメント100年

